

平成28年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

平成29年4月18日現在

研究課題名	R・S・カツ (ロマン・アルビトマン) 『ソヴィエトSF史』の余波	
申請者	氏名	所属機関・職
	梅村 博昭	元・東京農業大学生物産業学部講師

研究成果の概要

前年度の調査でロマン・アルビトマン Роман Арбитман について資料を集めることができたが、アルビトマンがカツ Р. С. Кац 名義で書いた歴史改変小説の一種である『ソヴィエトSF史』(サラトフ、1993年、サンクトペテルブルク、2004年、サンクトペテルブルク、2013年)を真正の学術書と真に受けて記述している政治学者フィッシュマン Л. Г. Фишман の本『ファンタスティカと市民社会』(2002年)を閲覧するため再度申し込みをした。第一回目は5月9日から13日まで滞在を申し込み、フィッシュマンの当該書のほか、同じフィッシュマンの著書『ブトレメウスを待ちて 社会学・政治学のメタパラダイムの転換』(2004年)、『ポストモダンの畏 往復の道』(2004年)、『民主主義の起源』(2011年)などを閲覧・必要箇所を複写した。また、アルビトマンがグルスキ名義で書いた『ロマン・アルビトマン ロシア第二代大統領伝』は現代史に対する細かな当てこすりに満ちており、これを理解するため、90年代、ゼロ年代のロシア政治に関する英語圏の研究書を数多く閲覧し、必要箇所を複写した。

第二回は17年1月16日から18日滞在した。アルビトマンに強い影響を与えたと思われる19世紀の作家センコフスキーのミスティフィケーションの手法について記述のあるメイラフ В. С. Мейлах 編『19世紀のロシア中篇小説 歴史およびジャンルの問題点』(1973年)を閲覧・必要箇所を複写した。また、アルビトマンとは直接関係ないものの、歴史改変小説 alternative history を考えるうえで興味深いと思われる1925年に書かれたヘクター・C・バイウオーター Hector C. Bywater 『太平洋大戦争 1931-1933年の米日戦』を閲覧した。また電子ジャーナルを利用し、必要な論文がいくつか手に入った。

主な発表論文等(雑誌論文、学会発表、図書 等)

『ソヴィエト・ファンタスティカの歴史』

ルスタン・カーツ／梅村博昭訳

共和国刊／2017年6月(予定)

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト(科研費等)

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。